

シリーズ

DV被害者支援を始めて（全五回）

第五回「加害者の変化」

NPO法人女性・人権支援センター

ステップ 理事長

栗原 加代美

私の執筆も5回シリーズの最後を迎えました。読者の方々に、今までお読みいただき、感謝申し上げます。

ここで、今までの内容をあげてみます。

- 1回目 更生プログラムに導かれた経緯
- 2回目 被害者の実態
- 3回目 加害者の実態
- 4回目 更生プログラムの内容

今回は「加害者の変化」についてお伝えいたします。



加害者の変化

●もし加害者が変わらないなら

DV加害者は変わらないと言われていきます。本当に変わらないのでしょうか？もし、加害者が変わらないなら、被害者は一生、逃げ続けなければならないのです。そのような環境で被害者に希望はなく、心身共に壊れていきます。DVは魂の殺人ですから…。

さらに、子どもたちの生涯は真つ暗闇になります。子どもたちは人間を、また自分を信じられなくなり、良い人間関係を築けなくなります。不登校、ひきこもりが起きてきます。心の荒れた子どもたちが犯罪に手を染めていきます。DVの連鎖が続いていきます。そのような中で、今までのDV問題の最善の解決は、被害者保護と離婚だと私も信じておりました。

しかし、離婚できるのはたったの1割です。

経済的理由や、子どもがいるから等の理由で、別れられないのです。そして、離婚が最終解決にならない事例が起きてきました。あるDV加害者は離婚後にストーカーになり、探偵を使い、元妻の住所をつきとめ、幼稚園に子どもを送る元妻にナイフで切りつけたのです。元夫は刑務所に入りましたが、12年後には出所してきます。元妻は元夫の出所を思い、毎日怯えて暮らしています。

DV加害者は変わらないとの見方は、人間観にも重なります。やり直しができないような人間を神様はつくられたのでしょうか？いいえ、人にやり直す力を神様は備えてくださっています。加害者の変化を見ていて、人の再生能力のたくましさ、強さに感動します。

●ステップで変わる

ステップで更生プログラムを始めてから11年の歳月が流れました。その間、8割の加害者が怒らなくなり、妻を尊重し、寄り添う人に変化してきました。お一人おひとりの変化にどんなに感動し、励まされてきたことでしょう。

変化しない2割の方は、妻が悪いから妻が変わるべきと考えて、ステップの教えを実践できない方々です。